

明倫短期大学学会報告

歯科技工士学科における学生のモチベーションと生活状況調査

五十嵐雅子（歯科技工士学科）

近年、歯科技工士学科では休学者や卒業延期者が増える傾向にある。そこで、学生のモチベーションと生活状況を調査し、感覚尺度測定したモチベーションレベルにはどのような項目が関連するかクロス集計により検討し、報告した。

アンケートの結果、帰宅時間・就寝時間については、「歯科技工士になりたい」および「実習」へのモチベーションレベルの低い学生が、早い、遅いかの極端に二分化する傾向がみられた。また、自宅学習については、試験前に勉強する学生が半数以上を示し、「毎日勉強する」「実技練習をする」と回答した学生が、「歯科技工士・実習」へのモチベーションレベルが最も高く、「全くしない」と回答した学生は最も低いモチベーションレベルを示した。テレビの視聴時間については、視聴時間が長くなるにつれ、「歯科技工士・実習」へのモチベーションレベルが低下する傾向がみられた。以上のことから、学生のモチベーションは、学生生活のいくつかの項目に関連性はみられたので、生活改善が、学生のモチベーションの向上に繋がる可能性が示唆された。

第41回（通算第124回）：2009年9月24日（木）

（座長：廣瀬浩二）

最近の3D・CAD/CAMにおけるデータ構築技術

植木一範（歯科技工士学科）

明倫短期大学では、歯科用3D・CAD/CAMシステムに関する教育・研究を開学当初より先駆けて行ってきたが、2000年頃から革命と言われるほどのITの進歩に伴い、3D・CAD/CAMの技術や利用方法にも変化が起きている。そこで今回、最近の3D・CAD/CAMにおける3Dデータの構築技術について、調査、考察を行ったので報告した。3Dデータは、ものづくりにおいて、設計の初期からのイメージを後工程に伝えやすく、設計の変更も容易であり、その後の最適設計シミュレーションなどへもデータを応用できるという利点がある。一方、データ形式や使用目的が多様で標準化が困難なため、オペレーションに訓練を要するなど導入しにくい面もある。特にデータ構築には、機材とノウハウが必要であり、3Dスキャナの選択によって精度やデータ構築作業の手間や時間に大きな影響がある。ここでは、

3Dデータ構築技術について、事例を挙げて紹介した。

第42回（通算第125回）：2009年10月22日（木）

（座長：金子 潤）

歯科用CAD/CAMセルコンの臨床への可能性について

産学連携交流会

藤井清隆（沖歯科工業株式会社）

近年、CAD/CAMシステムの進歩により、臨床応用症例が急速に増加してきている。それに伴い、単純なフレームデザインだけでなく、複雑なフレームデザインが求められるケースが増えている。

そこで、デンツプライ三金(株)のセルコンスマートセラミックスシステムを用いてダブルスキャンではなく、従来のワックスアップを直接スキャニングすることによって可能になった複雑なフレームデザインに対応した臨床症例を紹介した。

ただし、今回の症例には禁忌症に近い症例もあったため今後の経過を慎重に観察していく予定である。

診療所におけるPMTCの実際

中尾敦子（附属歯科診療所）

鴨井公子（附属歯科診療所）

明倫短期大学附属歯科診療所におけるPMTCの現状と患者満足度調査から今後の改善点を考察した。

PMTC実施患者は月平均10.4人、平均年齢は40.0歳で、そのうち約7割が女性である。担当歯科衛生士は臨床経験3年以上で、PMTCのための研修を修了したスタッフが施術にあたる。PMTCを受けたことのある患者20名に対し、PMTCを知ったきっかけや動機についての調査を行った。結果から、インターネットやパンフレットでPMTCを知るという人が意外に多く、診療所内に案内を増やすとより効果的ではないかと考えられた。また歯周病予防やう蝕予防などのためにPMTCを行うというように目的がはっきりした人もおり、患者ごとの目的に応じたPMTCの形態を模索していく必要があると思われた。

今後は、個人ごとに対応できるように問診票を改正し、当診療所におけるPMTCのさらなる充実をはかりたい。またPMTC実施のためのスタッフ教育と情報収集を今後も継続して行っていきたい。